

## (2) 遍路体験コースの設定と普及

愛媛大学では、平成17(2005)年度から「遍路をあるく」授業を開始した。歩き遍路体験学習授業である。すでに同じような授業を行っていた今治明德短期大学と共同で5月に土日2日連続で「さつき遍路」を、7月に土日2日連続で、愛媛大学単独で「夏へんろ」を実施してきた。この授業のなかで、松山市内や今治市内では歩き遍路1日体験コースが割と手軽に組めるという実感を持った。松山市内では、48番西林寺から53番円明寺まで約20kmでほぼ1日のコース。また筆者は48番西林寺から51番石手寺を経て道後温泉までを他の大学の学生達と歩いたこともある。これはほぼ4時間前後のコース。何れも初めての学生たちにとっては、“歩いた”という実感ももて、かつ“歩ききった”という達成感もあるものであった。途中で接待にでもあおうものならきわめて得難い体験をしたことに感動する。私のように車通勤していて長距離を歩く機会を持たない者にとっては、20km歩くのも相当に歩きがいのある距離であった。こうした体験から若者にとっても熟年世代にとっても1日程度の歩き遍路体験はきわめて穏やかな、かつ自分の健康度を測る有難い機会であると実感した次第である。

そこで提案であるが、それぞれの地域や職場で、最大1日のコースから数時間程度のモデルコースを組んで、歩き遍路体験を普及させる取組みをしてはどうだろうか。健康ブームで朝夕のウォーキングばやりの昨今、多くの方の興味を引くのではないだろうか。

実はもうすでにそういう提案はウォーキングの専門家からなされているのである。『えひめを歩こう ウォーキングコースガイド』(忠政啓文著、愛媛新聞社刊)がそれで、西條遍路道(10km、約3時間半)、道後界限(4.5km、約2時間)、旧三坂街道(6km、約3時間)、岩谷寺遍路道(6.5km、約3時間半)等のコースが地図入り、発着地情報も盛り込んで掲載されている。

まずはこれを活用してみてもどうだろうか。そしてこうした短い時間と距離による体験を何回か積んで1日コースに挑戦する準備をするのもいいのではないだろうか。

## おわりに

拙い内容であったが、今考えていることを提案させていただいた。「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録を実現する鍵は、地元・地域での支持の拡大にあると筆者は考えているが、こうした取組みに本稿が少しでも参考になれば、望外の喜びである。

### 註①

スペインのサンティアゴ巡礼地調査の報告は『四国遍路を中心とした日本・世界の巡礼の総合的研究 平成19年度報告書』(愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会編)、フランスのモン・サン・ミシェル、パリ、ルルド、とローマ、北イタリアのサクロモンテ調査報告は『四国遍路を中心とした日本・世界の巡礼の総合的研究 平成21年度報告書』(同編)に掲載した。

### 註②

「いざり」とは、古い言葉で今日ではほとんど使わない。『日葡辞書』(1603年刊)では、「イザリ(膝行)両手を使って進む不具者」とある。ここで言う「不具者」という言葉も今日では使わない。また『日本国語大辞典』では「ひざやしりを地につけながら進むこと。膝行(しっこう)。」とあって、さらに「足が悪く、立っては歩けない」障害者をさす言葉として解説されている。

なお、西端著書からの引用文中のT、SK等は筆者において実名をイニシャル化したものである。

### 註③

馬場恵二『癒しの民間信仰、ギリシアの古代と現代』(東洋書林、2006年)参照

### 註④

『空海の史跡を尋ねて 四国遍路ひとり歩き同行二人 [地図編]第7版』(宮崎建樹著)

## Profile 内田九州男(うちだ くすお)

1968 京都大学大学部史学科卒業

1969 大阪城天守閣学芸員

1992 現職

愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会代表